

再評価（3年次評価）結果票

恒見保育園

1 再評価実施日

平成30年11月5日

2 評価実施者

北九州市（北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会）

3 再評価結果（※評価結果・・・平成24年 1月13日 通常評価実施）

◎（1） 保育課程	
評価結果	保育所保育指針に基づき、発達過程区分に沿って、ねらいと内容が各年齢を通じて一貫性があるように見直し、園の独自性を具体的に盛り込むことが望まれていました。
再評価結果	全体的な計画は、保育所保育指針に基づき、ねらいと内容が各年齢を通じて一貫性があります。園の独自性の計画が具体的に盛り込まれています。

◎ (2) 指導計画	
評価結果	ねらいと内容を組み込んだ3歳未満児の年間指導計画を作成し、保育課程に基づき、年間・月間・週間の指導計画が一貫性のある計画となること、月間指導計画において評価・反省の結果が、次の計画に反映されていること、評価見直しにあたっては、園長または主任保育士が助言・指導を行うことが望まれていました。
再評価結果	ねらいと内容を組み込んだ3歳未満児の年間指導計画が作成されています。年間・月間・週間の指導計画は、一貫性のある計画となっています。指導計画は評価・反省が行われ、園長、主任保育士が助言・指導し次の計画に反映されています。

◎ (5) 健康管理	
評価結果	今後、健康に関する園内研修の開催や発病時に把握した病状等を記録に取ることが望まれていました。
再評価結果	健康管理保健年間計画の中に、健康に関する計画が位置付けられ職員会議で対応方法などの研修が行われています。発病時の病状の把握は、緊急時家庭連絡ノートに、記録、保管されています。

◎ (14) 遊びの環境	
評価結果	玩具・遊具を自由に取り出して遊べるように工夫し、好きな遊びができるコーナーを用意することと、玩具・遊具の選定はクラスだけでなく、職員会議で検討し、その結果は関係職員に周知されることが望まれていました。
再評価結果	各年齢に応じた遊びのコーナーが設置され、子どもが自由に玩具を取り出して遊べるように工夫されています。玩具・遊具の選定は子どもの発達に考慮し、職員で検討し結果は職員会議で報告されています。

◎ (19) 子どもの人権	
評価結果	今後は、子どもの人権に関する研修を年間計画に位置づけ、職員一人一人が人権感覚を豊かにし、子どもの人権に配慮した保育を行うことが望まれる。また、保護者に対しても人権尊重についての啓発をすることが望まれていました。
再評価結果	子どもの人権に関する研修が年間計画に位置付けられ、参加者が職員会議で報告しています。職員一人一人が「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を記入することで、人権感覚を豊かにし、子どもの人権に配慮した保育が行われています。保護者へは、入園・進級説明会、生活発表会などで、啓発を行っています。

◎ (24) 保護者との相互理解	
評価結果	個別面談を6月と2月の年2回計画し、保護者の希望に応じて面談を行っていますが、今後はクラス懇談会を開催し保護者との相互理解を深めることが望まれていました。
再評価結果	個人面談は全保護者に対して実施しており、保護者の就労の都合にあわせ、参加しやすいよう柔軟に対応していました。毎年4月にクラス懇談会を開催しており、保護者からの意見を汲み取る姿勢が伺えました。

◎ (28) 地域における役割	
評価結果	地域と連携し情報収集に努めていましたが、今後は、収集した情報を機関別などに整理・分類することが望まれていました。また、必要な情報は保護者に配布や掲示を通して提供されていましたが、職員にも必要な情報を周知することが望まれていました。
再評価結果	市民センターでの子育て支援事業を通じて地域との相互連携が図られていました。必要な情報は収集し分類され、適宜保護者に対して案内がなされていきました。職員に対する周知は、クラスを単位とした回覧と個人回覧でなされていきました。

◎ (30) 小学校との連携	
評価結果	近隣の小学校・幼稚園・保育所との交流会が年間5回ほど計画され、連携が図られています。また、門司区保育士会主催の公開保育に参加し、意見交換など連携の機会が図られています。今後は、保育園と小学校との職員による話し合いや、授業参観や保育参観などの交流、また他の保育園（幼稚園）園児との園児同士の交流が望まれていました。
再評価結果	年間計画に沿って、小学校・幼稚園・他保育所との連携が図られていました。特に小学校とは恒常的に交流が行われていました。また小学校教諭の保育士体験が計画・実施されていました。

◎ (32) 実習生や保育体験、ボランティアの受け入れ	
評価結果	実習生や保育体験、ボランティアの受け入れについて、それぞれの意義や方針が保護者に周知されること、受け入れにあたってはそれぞれについて目的に応じたプログラムを作成することが望まれていました。
再評価結果	実習生や保育体験、ボランティアの受け入れについて、それぞれの意義や方針が保護者に掲示にて周知されていました。受け入れにあたってはそれぞれについて目的に応じたプログラムが作成されていました。特に保育実習生においては、実習生の学習レディネスに応じたきめ細やかな個人にあった実習プログラムが作成されていました。

◎ (34) 保育サービス向上への取り組み	
評価結果	職員会議で、延長保育や朝夕の合同保育について随時検討・見直しをしている。職員の参加のもとに自己評価を行っているが、今後、結果に基づき取り組む課題を明確にし、改善策や改善計画を立て実施することが望まれる。また、保護者へのアンケートは行事ごとに行っているが、検討されたことを保護者に報告することが望まれていました。
再評価結果	<p>行事後、アンケート調査を実施し、保護者の意向の把握に努めていました。結果は分析し、職員会議に諮られ、意見交換が行われ、さらに、保護者へ結果報告も実施されていました。</p> <p>職員の自己評価は、クラス単位と職員個人で実施され、レーダーチャート使用により視覚化されていました。また、自己評価に基づき、園長による面接が実施されています。</p>

◎ (35) 職員研修	
評価結果	職場外研修に関しては、研修成果を評価検討し次年度の研修計画に反映されているが、今後、園内研修計画を作成し、研修成果を評価し、次の研修計画に反映することが望まれていました。
再評価結果	園内研修計画が作成され、計画的に研修がなされていました。職員ごとの研修成果がファイリングされ、園長による成果分析がなされており、次年度の研修計画に反映されていました。